

| | | | | | | |
|---------------|----------------|-------|----------------------|------|----|-----|
| 施策番号 5-1-3 | 施策名 地域活動の推進 | 基本目標 | 町民が主役となった自治に基づくまちづくり | | | |
| | | 政策名 | 町民が主役となった地域づくり | | | |
| | 主管課 | 企画財政課 | 課長名 | 佐野寿行 | 内線 | 220 |
| | 施策関係課 | 総務課 | | | | |

1. 施策の方針と成果指標

| 施策の方針 | | 対象 | 意図 | | | | | 結果 | |
|---------------------------------------|--|----|---------------|------|------|------|----------|------------------|--|
| 町民の主体的な地域活動への参加を促進し、町民全体のまちづくりをすすめます。 | | 町民 | 主体的に地域活動に参加する | | | | | 町民全体のまちづくりに結びつける | |
| 成果指標 | 説明 | 単位 | 23年度(策定時) | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度(目標) | | |
| ① 地域の活動に参加している町民の割合 | 住民意識調査 | % | 48.6 | 48.2 | 53.2 | 55.0 | 55.0 | | |
| ② 町民活動支援センターの運営に満足している割合 | 町民活動支援センター調べ | % | 未調査 | 83.3 | 92.0 | 80.0 | 80.0 | | |
| ③ | | | | | | | | | |
| 成果指標設定の考え方 | ①前期実施計画の目標を55%としており、前期期間中45～53%程度で推移していることから引き続き55%以上を目標とする。 ②登録団体が支援センターに求めるものが多様であることから80%を目標とする。 | | | | | | | | |

2. 施策の事業費

| | 27年度決算 | 28年度決算 |
|-----------|--------|---------|
| 施策事業費(千円) | 56,835 | 163,897 |
| 人工数(業務量) | 0.6055 | 1.3995 |

3. 施策の達成状況

| (1) 施策の達成度とその考察 | | | |
|------------------------------|---|--------------------------|--|
| ①平成28年度の成果評価(前年度比較) | <input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した | 想定される理由 | 両指標ともに上昇しているため。 |
| ②平成30年度の目標値達成見込み | <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい | 根拠(理由) | 町民活動を支援する機能として設置している「町民活動支援センター」が定着してきているが、地域活動は多種多様であるが、高齢者福祉分野の地域包括ケアの視点における地域活動や、農村部における地域の将来像の話し合いが始まっており、引き続き地域活動がしやすい支援体制を構築することで達成可能と考える。 |
| (2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括 | | | |
| ①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業 | 地域集会施設維持管理事業 協働のまちづくり活動支援事業 町民活動支援センター運営事業 | ②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業 | |
| ③事務事業全体の振り返り(総括) | ●町民活動の拠点である地域集会施設については、老朽化と耐震強度不足が指摘されているため、「効果的・効率的な行政運営施策」の中で再整備方針を定めた公共施設等総合管理計画が策定された。この計画に基づき地域集会施設再整備方針を策定し、西地区新コミュニティセンターを建設した。また、農村部を中心に集会施設のあり方について話し合いが始められた。 ●「町民活動支援センター運営事業」は、中間支援組織を目指して毎年度事業内容を検証しながら、地域活動の推進を目指した。 ●上美生地域において地域の将来像を話し合い、地域主体となって課題解決を試行している。 | | |

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

| | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D | E |
| 進捗結果 | | | ○ | | |

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

| | |
|-----------------------------------|---|
| 施策を取り巻く状況と今後の予測 | <p>「施策を取り巻く状況」 協働のまちづくりを進めていくためには、町民が主体的に活動する環境の整備が必要であるが、町内会や老人会の加入率低下に歯止めがかからず、地域活動の前提にある地域コミュニティの希薄化が進行している。</p> <p>「今後の予測」 地域活動を支援する集會機能拠点の再整備・財政的支援・コミュニティの場づくりなどを積極的に推進していくべきである。</p> |
| この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？ | <p>老朽化が進んだ地域集會施設の再整備について要望がある。</p> <p>協働のまちづくり活動支援事業のPR不足を指摘されている。</p> |

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

| |
|---|
| <p>課題① 地域集會施設の再整備 地域集會施設再整備方針に基づき、各地域住民が主体となって施設利用の在り方を議論いただき、効率的な施設再整備が必要である。</p> <p>課題② 地域コミュニティの高齢化と希薄化 地域活動の原点である地域コミュニティに関わりたくない住民の割合が増え、町内会加入率の低下や公共サービスパートナー受託業務の辞退が表面化している一方で、農村部において地域の将来像を地域主体となって話し合う機運が高まっている。</p> <p>課題③ 高齢化の進展に対応するため地域包括ケアの取組みが重要になっているが、公的サービスに限界があり、地域住民が支え合う活動が期待されることから、町民活動支援センターの役割は益々大きなものになっている。</p> |
|---|

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

| | | | | | | | |
|-------------|---|--|---|---|---|---|---|
| 評価 | ●町民活動支援センターの役割の定着や、地域住民が主体となって課題解決に取り組む展開など、後期実施計画策定時と比較して前進していると言える。 | | A | B | C | D | E |
| | | 進捗結果 | | | ○ | | |
| 今後の取組に対する意見 | ●時代と共に、地域コミュニティに対する意識の変化が生じている一方、地域コミュニティの重要性も高まっている。 | <p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p> | | | | | |

7. 総合計画審議会(外部評価)

| | | | | | | | |
|-------------|---|--|---|---|---|---|---|
| 評価 | ●町民活動支援センターの活動により団体活動は活発化している。 | | A | B | C | D | E |
| | | 進捗結果 | | | ○ | | |
| 今後の取組に対する意見 | <p>●団体活動に多様な課題があることから、寄り添った対応が望まれる。</p> <p>●町民活動支援センターの会議室に使いづらさを感じる面もあるので、改善に努めてほしい。</p> | <p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p> | | | | | |